東京農業大学 総合研究所研究会

入会のご案内

総合研究所研究会

東京農業大学の挑戦領域５分野
「生命」「食料」「環境」「健康」「バイオマスエネルギー」
その研究成果を社会へ還元するために

東京農業大学総合研究所を母体として、昭和56（1981）年に**「東京農業大学の行う産官学協力研究事業その他これに関する事業の発展に協力する」ことを目的に設立された会員制の組織**です。これまで40年以上にわたり東京農業大学の産官学連携研究の推進とその成果の社会的発信に大きな役割を果たしてきました。現在、課題・研究分野ごとにつくられた36の部会（次ページ参照）では共同研究の促進のための研究情報の交換等が積極的に行われています。

会員数 640名
法人会員・個人会員等（2024年6月1日現在）

歴代会長

就任年		氏名	就任時所属
初代	昭和56(1981)年	水上 達三	三井物産株式会社相談役
第2代	平成 2 (1990)年	土方 武	住友化学株式会社会長
第3代	平成 5 (1993)年	金田 幸三	株式会社ニチレイ会長
第4代	平成16(2004)年	茂木 友三郎	キッコーマン株式会社会長
第5代	平成23(2011)年	大橋 信夫	三井物産株式会社顧問
第6代	平成25(2013)年	槍田 松瑩	三井物産株式会社取締役会長
第7代	令和 3 (2021)年	堀切 功章	キッコーマン株式会社 代表取締役会長

第7代会長
堀切　功章

創設者
榎本 武揚

初代学長
横井 時敬

東京農業大学

明治の英傑榎本武揚が創設した私立農学系大学として最も歴史ある大学です。現在、世田谷、厚木、北海道オホーツク（網走）の3キャンパスに大学院6研究科・6学部を擁し「生命」「食料」「環境」「健康」「バイオマスエネルギー」に係る諸課題に取り組んでいます。

総合研究所

研究の活性化や研究成果の社会への還元を目的に、大学の研究活動全般の受発信窓口として設置された機関です。本学の戦略的研究を企画・推進するとともに、各学部間の連携が必要なプロジェクト研究の支援、海外の研究機関や産業界との連携など、本学の研究センターとしての役割を担っています。

入会申込方法

ご入会は、随時受け付けております。ホームページの入会案内の入会申込フォームよりお申し込みください。

入会申込フォーム

https://nodai-nri.jp/promotion/society/entry

年会費	法人会員 30,000円	個人会員 10,000円

※ 毎年総会開催後に請求書を発行します。
※ 総会開催後にご入会の場合は、当年度の年会費は不要です。
※ 会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までです。
※ 複数の部会にご入会いただけます。

入会申込フォームが開けない場合は、右記E-mailにお問い合わせください。

お問合せ先

東京農業大学総合研究所研究会　事務局

〒156-8502
東京都世田谷区桜丘1-1-1
東京農業大学総合研究所事務部内

Tel 03-5477-2565
Fax 03-5477-2634
E-mail kenkyuka@nodai.ac.jp
URL https://nodai-nri.jp/promotion/society

東京農業大学 総合研究所研究会 36部会紹介

各部会では、多様な課題について議論を深め
会員相互の知識の増進に努めています。

1 アグリ・フードテクノロジー部会
部会長：高野 克己

食品製造は農産物への付加価値を付与すると共に、外食産業、流通関連産業への起点となる重要な産業です。食品は成分や組織が不均一な非常に複雑な系のため、その製造・加工には、様々な側面からの知識と技術が必要となります。本部会では食品産業に関わる様々な人達が集い、未解明の様々な事象や、新たな食品加工技術の創出を目指します。

2 アロマ・コスメ・フード連携部会
部会長：山崎 雅夫

食品と香粧品は身心の美的健康の提供を共通の目的としています。その中でも香料は食品と香粧品の共通素材であり、機能や嗜好に大きな影響を与えます。食品と香粧品の開発にとって香料との連携は不可欠であり、本部会は食品、香料および香粧品（食香粧）における科学技術および産業界の交流と、情報の交換および発信可能な場の提供を目指しています。

3 稲・コメ・ごはん部会
部会長：佐々木 卓治

「稲」の生産にはたくさんの農家、研究者が関わっています。「コメ」の流通には集荷業者、卸売業者と販売者の連携が必要です。また加工業者や家電メーカー、消費者がつながらないとおいしい「ごはん」はできません。当部会はこうした関係者が協力の輪を広げ、活動を加速する場として設けられました。新たな価値の発見と共有を目指しています。

4 榎本・横井研究部会
部会長：原 珠里

東京農業大学の生みの親である榎本武揚、育ての親である横井時敬。この二人の学祖について研究を深めるとともに、その業績を世に広めようとの趣旨で設立されました。これまでの部会活動として、大学での講座開講、定期的な研究会の開催、研修旅行のほか、多数の出版物を刊行しています。

5 おいしさ研究部会
部会長：松本 信二

食品の品質の要因は、栄養（健康機能）、安全性、そしておいしさです。その中で「おいしさ」は感覚的要素であるため、科学的な取り組みが難しく遅れておりますが、近年、専門家をはじめ一般消費者の関心が高まっています。当部会では、おいしさの知覚などの生理的アプローチ、おいしさの評価法（主観的、客観的）に関する講演会を開催し、情報交換の場を提供することを目的としています。

6 応用微生物部会
部会長：鈴木 健一朗

微生物は基礎生物学のモデル生物であるとともに、伝統的発酵食品から先端的な素材生産や環境問題への対応まで、応用分野でも幅広い利用が行われています。近年ではゲノム解析の普及から、新しい技術の導入が加速度的に進み、微生物を取り扱う環境も多様化しています。当部会では関連部会と連携をとり、微生物の研究と応用を横断的に理解する環境を整備します。

7 環境緑化部会
部会長：粟野 隆

昭和時代後期から、積極的に都市緑化が進められ、その後、環境との関連を深く考究し実践する必要性が生まれました。この課題を具体的に解決すべく、広い領域の学問、知識を用いつつ、現代社会における環境緑化に係る今日的課題に対処することを目指して設立されました。定期的なスクールやフォーラム開催のほか、一般公開講座を実施しています。

8 きのこ研究部会
部会長：阿部 尚樹

きのこは、採取と生産だけでなく、酵素の利用、機能性食品、さらには医薬品原材料としても活用されています。当部会は、消費者、生産者、研究・技術者などが密接に連携し、「きのこを知ろう！きのこに学ぼう！きのこと暮らそう！」をスローガンにきのこに親しんでいただく会です。情報発信のために、きのこ研究部会 Facebook ページも開設しています。

9 グローバル情報研究部会
部会長：立岩 寿一

アグリカルチャーの概念をグローバルにとらえ、食・農を起点にした凡ゆるビジネスの可能性を東京農業大学の知のネットワークをつないで研究する部会です。日本を含めた世界の情報が自由に交流する場をプロデュースして情報の化学変化を起こし、感性と技術のさらなる向上をデザイン思考する。産官民学が連携して実社会の発展に貢献する為の「生きたグローバル情報」のプラットホームです。

10 昆虫バイテク部会
部会長：長島 孝行

シルク未開発資源（野蚕など）は、数多く地球上に広く分布し、その利活用が期待されています。当部会ではカイコの研究に由来する品種改良、人工飼料、昆虫ホルモン利用、遺伝子組換え技術などの利用により未開発資源の新しい研究と利用を重視しています。特に、シルクは健康素材であることが解かり、この分野の発展を進めています。

11 沙漠緑化研究部会
部会長：豊田 裕道

沙漠や乾燥地における沙漠化の防止と緑化、および食料生産性の向上に関する調査研究と技術の普及活動を通し、地球環境の改善に貢献することを目的としています。最近では、アフリカでの沙漠緑化に係わる調査研究活動と技術普及活動、世界の乾燥地関係の研究者との交流、研究成果の発表や活動報告会の開催などを行っています。

12 GIS研究部会
部会長：鈴木 充夫

当部会は、GIS（地理情報システム）や GNSS などの技術をもとに、農林水産業、環境など多分野にわたる学際的研究を国内外で推進するとともに、民間企業・地域 JA・森林組合と連携した『次世代農業サポート研究会』を部会内に設立し、農林業における人材育成、および、学生ベンチャーの育成を目指した技術研修会を定期的に開催します。

13 芝草部会
部会長：高橋 新平

芝草分野は産業界においても芝草の造成や管理、育種に関する研究が行われ始めていますが、多くの未解明な問題が山積しています。当部会は芝草を対象として、芝草ならびに関連諸事項について研究と議論を深め、会員相互の知識の高揚に努めることを目的に、講演会・セミナーの開催、委託研究や共同研究の相談、部会ニュースの発行などを行っています。

14 就農者推進教育研究部会
部会長：平野 繁

学生を農業の現場にいざない、農業実習や研修、交流、ファームステイなどを通じて実学的、体験的学習を展開し、農業、農村問題の理解や就農に求められるスキルや条件についての理解を促しています。また、地域開発や豊かな社会を構築する担い手としての資質を高めるために、フォーラムや就農ゼミを開催し、農業理解と就農支援を行っています。

15 醸造食品部会
部会長：舘 博

大学の設立理念である実学主義に基づき、醸造業ならびに醸造関連産業のさらなる発展の為に、全国の大学で「醸造」の名を冠した教育研究機関の醸造科学科と産業界の産学連携を推進することを目的としています。これまでに、フォーラム、講演会の開催や、各種製造業の視察、意見交換会などを開催しています。

16 食と農の環境工学部会
部会長：中村 好男

当部会では、食と農の社会資本について、主に工学的なアプローチを産官学の連携によって進め、農地の適正な保全と利用、土地改良施設の適正な維持・更新・管理、機械・施設・ICT 等の技術革新、再生可能エネルギーの開発・普及、農村環境の創造などのテーマについて検討し、食料・農業・農村の持続的な発展に寄与することを目指します。

17 食の安全と安心部会
部会長：五十君 靜信

現在、食の多様化とグローバル化により食を取り巻く環境がめまぐるしく変化しています。当部会では、食の安全性を担保する現在の科学的な知識や、食の安全性を担保するために農学分野が寄与できる制度・技術開発などを発信・議論することで、“正しい食の安全”の情報を共有し、一般消費者が“食の安心”を得られることを目指します。

18 食・農データサイエンス部会
部会長：金谷 重彦

食・農データサイエンス部会では、食品や農産物の測定データ、呈味官能データ、化学構造情報、食品品質管理などに焦点をあて、実データを R や Python などのプログラムにより知識発見を行う、「食・農」データサイエンスの推進を目的とします。学生から大学・企業の研究者が対象です。これから始める方も大歓迎です。参加者のリクエストにも応えていきたいと思います。

19 植物工場研究部会
部会長：山中 宏夫

機能性野菜や6次産業化・スマートアグリなど、植物工場のハード・ソフト・事業運営・地方創生などをテーマに、時代・社会のニーズにあった産学連携を実学主義的に取り組みます。講演会、セミナーの開催、委託研究や共同研究の相談、大学での講座開講などを行うことで、会員相互の知識の高揚に努め、植物工場の産業化に寄与することを目的とします。

20 森林文化研究部会
部会長：佐藤 孝吉

私たちの豊かな生活は、森林からの多様な恩恵の上に成り立っています。森林からの恩恵を将来にわたって持続的に享受するために、様々な知恵がうまれ生活様式を形成してきました。時代とともに生活が変化する中で、森林との付き合い方がどのようになっているか、どのようにあるべきか、様々な視点から研究しています。

21 スマート農業・ロボティクス部会
部会長：佐々木 豊

本研究部会は、スマート農業や農業ロボット、フード＆アグリテックなど農業の先端技術に係る研究機関や企業と、関心のある研究者や企業などを対象に、学内外研究機関と各企業のハブとなり、これまでのスマート農業技術に加えて、新しい研究・開発分野の創出や価値の創出を目指します。

22 生物的防除部会
部会長：河津 圭

天敵昆虫、天敵微生物、情報化学物質、バイオスティミュラント等を活用した生物的防除に加え、薬剤の選択的利用等を含めたIPM に関する幅広いテーマを対象に、年3回の講演会開催、ニュースレター発刊を行っています。更に HP 上で論文・トピック・随想を掲載することで、IPM 技術の情報提供・情報交換を実施し、生物的防除の普及を目指しています。

23 生命科学研究部会
部会長：角谷 直人

生命科学研究は、近年、研究分野が広がるとともに細分化も進んでいます。当部会は、生命科学研究に携わる研究者との交流を深め、学術研究の推進を図ることを目的に設立されました。生命科学のそれぞれの分野の第一線で活躍されている研究者を講師に招いて、講演会を開催しています。

24 大学所有遺伝資源保全・利用研究部会
部会長：豊原 秀和

東京農業大学には、研究室などで長年にわたり国内外から収集、保存されてきた植物、動物、微生物などの遺伝資源が豊富にあります。当部会では、これら遺伝資源の利用を産官学で考え、促進することを目的に、意見交換会、セミナーを開催し、積極的に遺伝資源を利用・開発する為の情報交換を行います。

25 地域再生研究部会
部会長：宮林 茂幸

人口の減少は地域経済を大きく縮小するのみならず、わが国の優れた土地利用を変質させ山紫水明の国土の崩壊に繋がります。当部会は、仕事をおこし、安心・安全で循環型の暮らしができる地域再生について研究します。当面は平塚市吉沢西部地区の里山再生をテーマとして、地元協議会、平塚市、中央日本土地建物㈱、東京農大を中心に活動していきます。

26 地域連携推進研究部会
部会長：水庭 千鶴子

地域との連携を高め、多面的活性を試みる地域振興の研究を目的とした部会を設立しました。特に、東京農業大学と茨城県との包括連携協定締結に伴い、県における人材の安定を図り、農業基盤を充実させる方策等を検討しています。シンポジウムや情報交換会の開催、県の農産物等情報発信に伴うイベントへの参加を予定しています。

27 農業・関連企業のイノベーション部会
部会長：堀田 和彦

新たな産学連携活動を積極的に推進し、農業界にイノベーションを起こします。大学や研究機関が開発した学術的知見や技術手法を、民間企業が実務へ活用できる仕組みを構築して行きます。また、企業経営者が中心となり、ビジネスで得た知識や経験を、大学の教育や研究に活かせるように、セミナーやフォーラムを開催し、次世代への情報発信も進めて行きます。

28 農業協同組合研究部会
部会長：白石 正彦

2024年度は、シンポジウムを11月8日（金）13:00から17:00まで世田谷キャンパスと zoom のハイブリット方式で開催予定。主題の「総合農協の新農業・農山村・食料システム志向の組織力・事業経営力の革新と好循環の戦略的課題解決方策」を本学、JA 全中、茨城県 JA 水戸、千葉県 JA いちかわの最前線の報告を踏まえ、論議を深めます。

29 農業生産工程管理（GAP）研究部会
部会長：入江 憲治

食品事故（偽装、異物混入、生物・化学的汚染）を未然に防ぐために、食品加工業では HACCP 認証導入が義務化されました。一方で、原材料を生産する農業においても欧米を中心に GAP 認証の導入が進んできています。そこで当部会は農業生産工程管理（GAP）の普及・研究を産学で促進することを目的に活動します。

30 農村計画研究部会
部会長：宮林 茂幸

地方分権時代を、協同管理時代を背景として、地方都市および周辺農村地域における独自の地域活性化手法が実践されています。多様な事例を踏まえた情報を収集・分析・共有し、新しい地域管理の担い手としての市民参加・教育の一環としての参加等による田園景観保全の模索など、農村計画・農村環境管理の今後の実践的方法論を考究しています。

31 農薬部会
部会長：梅津 憲治

農薬を含む作物保護および食の安全性・環境影響に関する周辺分野の最新研究について、国内外の幅広い情報提供を目的とし、会員相互の交流を図ることを目指しています。これまでの活動として年6回のセミナーや特別講演会および共催シンポジウムなどを開催しています。

32 バイオビジネス部会
部会長：大久保 研治

国内農業並びに農業関連産業の維持・発展に寄与することを目的に学外団体と連携しながら公開フォーラムを開催しています。近年では地域の農林業をテーマとした地域フォーラム（福岡市）や地域デザイン学会と共催で農業文化フォーラムなどを開催しました。今後も様々な事業体と連携しながら活動をすすめていきます。

33 バイオマス・資源・エネルギー研究部会
部会長：大西 章博

人間は食料としてバイオマス（生物）に蓄えられた質の高いエネルギーと物質を取り込むことで命を支えています。近年、このバイオマスのうち未利用のものを燃料や他の生産物に変換し、経済活性化に繋げようとする動きが進んでいます。当部会では、バイオマスを利用した新たな産業技術開発と地域経済の活性化に取り組みます。

34 人と生物圏研究部会
部会長：濱野 周泰

持続的な社会の構築を考える上で、人と生物の関係を捉えることは重要です。これまで活動してきた、ビオトープ研究部会から新たに「人と生物圏研究部会」として活動を再開しました。人と生物が生活している場を生物圏としてとらえ、現地視察などを通して、生物の生活へ様々な影響を及ぼす人と生物の関係についてセミナーや講習会などを開催します。

35 みどりの環境創造研究部会
部会長：中村 幸人

人と自然の共生系の基盤は生態系の生産者となるみどりです。草原から森林まで、様々なみどりを植生学的に理解し、多様で安定した景観を維持するためにみどりの復元を行います。毎年8月下旬に一般社団法人日本植木協会との共催による植生アドバイザー育成講座を実施します。この講座は環境省、農林水産省共管の「人材認定等事業」に登録されています。

36 労災対策研究部会
部会長：北田 紀久雄

農業者の労災事故死は最近ようやく300人を下回りましたが、10万人あたり死亡事故発生件数は、従来危険業種とされた建設業の2倍以上であり、その防止対策が強く求められています。当部会は全農業者の命を守る対策を産官学の連携体制で構築し、死亡事故ゼロに挑むリスクアセスメント手法の全国展開を JA 等と共に普及・推進に努めています。